
鬼舞 ～見習い陰陽師と妖狐～

紅雨湊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼舞 ～見習い陰陽師と妖狐～

【Nコード】

N8533Z

【作者名】

紅雨湊

【あらすじ】

陰陽寮の帰りに謎の影に追いかけてしまつ道冬、そこを謎の少女に助けられる

序章 く少女と影く

「暇だ、暇だ、久しぶりに晴明のところに遊びに行こうか……」

京の都の外れで木の枝に座り足をぶらぶらさせながら独り言をつぶやく少女

「でも、あの じい^いに会いに行くのも悪くはないか」

考えがまとまったのか、少女は枝から立ち上がりそこから飛び降りると足輕に道をかけて行った。

く数刻後く

「さて、たしかココら辺のはずだが………ん？」

目的の屋敷の周辺で香しい香りが彼女の鼻孔をくすぐった

「これは………」

匂いガスる方向に行ってみると、一人の少年の背後に黒い影が見える

その影はその少年を襲おうとしていた。

『あれは………』

その少年も必死に逃げているが追いつかれそうになっている

「まずい！！その人伏せろ！“臨める兵闘う者、皆陣破れて前に在り”！！！！！！」

無数の光の刃が影を切り刻み、そして消えた

「はー、よかったあ」

「え、ええ！？」

陰陽寮帰りの道冬は今まで自分を追いかけていた影を目の前の少女が倒したことに驚き固まっている。

「大丈夫か？」

影を倒した少女は、自分を凝視したままで固まっている道冬に手を差し伸べる

「え、ああ、ありがとう」

我に返った道冬は少女の手を取り立ち上がった

「いえいえ、これから気をつけるよ？」

少女は芳しい香りが道冬からしていることに気づいた

「良い香り……………」

「え？」

「あつ、なんでもない、それじゃっ」

「え！？ちよつと！！」

道冬が止めるも少女の姿は夜の闇に紛れた

序章 少女と影（後書き）

ゆっくり更新していきます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8533z/>

鬼舞 ～見習い陰陽師と妖狐～

2011年12月26日22時55分発行